石川県立美術館だより

平成20年2月1日発行　第292号

所蔵品紹介 185

和伎母一隅（わぎもいちぐう）

高光一也（たかみつかずや）　明治40年(1907)～昭和61年(1986)

昭和49年(1974)　第60回光風会展
縦145.1×横112.0

「わぎも」は吾妹とも書き、男性が妻や恋人を親しみを込めて呼ぶ、いにしえの言葉です。この画題のとおり、作品に描かれているのは、作者高光一也氏の妻かちよ夫人で、二人は昭和9年に結婚され、以来50年を超える年月、苦楽を共にされました。昭和49年ですと、ちょうど40年を経た頃で、共に60代の後半でした。

これまで高光氏の女性像は、つま先や頭頂部を切ることもいとわぬほど、キャンバスいっぱいに、力強く描かれてきました。ところがこの作品では様相が違い、ほとんど唯一無二と言っていいかと思われるのですが、肘掛け椅子に座り画集に見入っている夫人は画面右寄りに配されて、かなり小さく、むしろ左のソファーやクッションや鉢などが主にさえ見えるのです。夫人はすっかり周囲にとけ込んでいます。

そして、左上方からの柔らかな光は、作者の晩年の作品を特徴づける、厚く散りばめられた絵具のタッチできらめき、作者の愛情が優しく降り注いでいるようでもあります。

「柔らかい室内の多彩な光の中に、妻をも一つの色彩としてあしらった絵にしたかった。絵にして日頃のご恩返しをしたかったのである。」こう作者は、本作について述べました。長い年月、自分を支えてきてくれた妻への感謝の思いが込められた作品なのです。

高光一也：明治40年金沢市生まれ。昭和7年第13回帝展初入選。12年第1回新文展特選。21年金沢美術工芸専門学校の創設に加わり、短大・大学時代を通じて多くの後進を指導。46年、日本芸術院賞受賞。芸術院会員、文化功労者。昭和61年逝去。

リニューアル特集

長らくお休みしている美術館ですが、着々とリニューアルに向けて準備を進めています。今回は、リニューアル特別展やその他リニューアルに向けての最新情報をお知らせいたします。

リニューアル特別展が決定しました

九月に始まった改修工事は、館内の天井やフロアの大部分が取り払われ、収蔵庫などの増設工事を含めて着々と進んでいます。一方でお待ちかねのリニューアルオープン特別展の内容が固まりました。展覧会名称は「法隆寺の名宝と聖徳太子の文化財展」。法隆寺から百件を超える文化財を出品していただきます。

今回の目玉は何といっても「国宝　玉虫厨子」。法隆寺の特別なご配慮で日本海側では初めての出品となります。歴史や美術の教科書で皆さんもよくご承知のことは思いますが、次号からその見どころや厨子にまつわるいろいろな話をお伝えしていきたいと思います。ほかにも工芸どころ石川を意識して「国宝　黒漆螺鈿卓」や「重要文化財　蜀江錦」など工芸品を中心に仏像や絵画、伎楽面など国宝・重要文化財だけで五十五件を数える超豪華な展覧会となります。

国宝　玉虫厨子　法隆寺

これまで東京や大阪など各地で法隆寺の展覧会が開かれてきましたが、地方の県立美術館での単独開催は初めてとなります。こうした大規模な展覧会が開催されることになったのには、二つの理由があります。

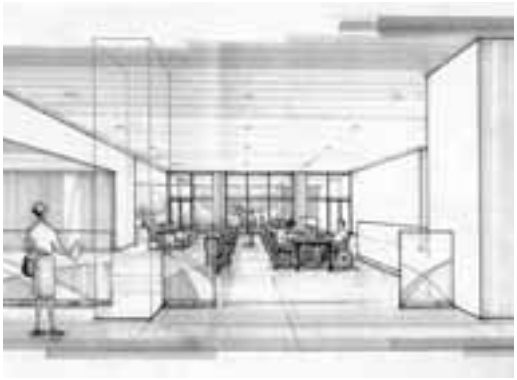
ひとつは北陸の地が法隆寺を創建した聖徳太子と深く関わっていたということです。北陸は浄土真宗の盛んな地域で、その信仰の中に聖徳太子への信仰があります。宗祖親鸞が聖徳太子のお告げに導かれ専修念仏の道を選んだといわれており、聖徳太子像を安置する寺院が多いことで知られています。太子への尊崇がこの展覧会につながったものといえましょう。

ふたつ目は法隆寺と石川県立美術館との関係です。平成十年に開催した「国宝　百済観音」展で多くの入場者を迎え、たくさんの人たちが法隆寺との関わりを深めました。その入場者は大都市名古屋や仙台を凌いでおり、法隆寺関係者の間で石川の熱き思いを感じ取っていただくことになりました。それ以後、法隆寺の見学や友の会による団体鑑賞などに大きな便宜を図っていただくこととなり、いままた石川での開催に積極的に協力をいただくことになったのです。

世界的パティシエと新しい喫茶室

秋の開館に向けてもう一つ大きなできごとがあります。それは喫茶室の改修です。これまでの喫茶室を拡張し、本多の森側のガラス面をより大きくするなどの工夫をしました。なかでも注目すべきは、世界的に知られるパティシエ辻口博啓氏がプロデュースする会社が運営を担当するということです。話題のスウィーツが並ぶことから、展覧会ばかりでなく喫茶室でも新しい楽しみが増えることになりそうです。カフェの名前やメニューは、あらためてご紹介したいと思います。

当初は九月末日までの工事を計画していましたが、再開を待たれる多くの方の声もあり、予定よりも若干早めてリニューアルオープンを九月二十日の土曜日としました。エレベータの増設やエスカレーターの新設はこれからとなりますが、生まれ変わった石川県立美術館の姿を皆様にお届けすべく、半年あまり先のその日を目指して工事を進め、皆様のご来場をお待ちしたいと思います。ご期待下さい。



喫茶室予想図

当館所蔵品が見られる展覧会

【□＝県指定文化財　◎＝重要文化財】

◆石川県立美術館名品展

加賀の名宝ー石川の工芸の粋を集めて

高岡市美術館

平成20年2月8日(金)～3月16日(日)

◎四季耕作図　久隅守景
◎色絵梅花図平水指　野々村仁清
□槇檜図　俵屋宗達　など72点

◆九谷古陶磁名品展

珠玉の石川県立美術館コレクション

石川県九谷焼美術館

平成19年11月3日(土・祝)～
平成20年3月2日(日)

□色絵鳳凰図平鉢　古九谷
□色絵布袋図平鉢　古九谷　など30点

色絵梅花図平水指
高岡市美術館
「石川県立美術館名品展」より

◆魅惑のヨーロッパガラス

石川県能登島ガラス美術館

平成19年12月1日(土)～
平成20年3月3日(月)

レース・グラス蓋付大杯
エナメル彩狩猟文リキュールセット　など30点

◆石川県立美術館所蔵品による「ひと・人・ヒト」

小松市立宮本三郎美術館

平成19年12月8日(土)～
平成20年3月9日(日)

酔燕台翁　伊東深水
1982年 私　鴨居　玲　など20点

県内の主な展覧会

金沢地区

◆ **金沢市立中村記念美術館**
①076(221)0751
②冬季展　伝統工芸の技法
③12月1日～2月24日

◆ **金沢くらしの博物館**
①076(222)5740
②雛飾り展
③2月2日～4月6日

◆ **金沢市安江金箔工芸館**
①076(233)1502
②かざる・はこぶ・まもる
容れ物あれこれ
③11月29日～2月24日

◆ **金沢21世紀美術館**
①076(220)2800
②粟津潔展
③11月23日～3月20日

◆ **石川県銭屋五兵衛記念館**
①076(267)7744
②開館10周年記念展
「北地正ジオラマ写真展心の風景」
③1月4日～3月30日

◆ **前田土佐守家資料館**
①076(233)1561
②Warande Der Dieren動物庭園
～前田土佐守資料のなかの動物たち
③1月26日～４月13日

◆ **金沢湯涌夢二館**
①076(235)1112
②描かれた恋
③1月24日～４月13日

◆ **泉鏡花記念館**
①076(222)1025
②雪岱－心像の美の軌跡－
③12月15日～2月25日

◆ **室生犀星記念館**
①076(245)1108
②犀星が描いた金沢－ふるさとを思う－
③12月8日～6月29日

◆ **石川県立伝統産業工芸館**
①076(262)2020
②石川の伝統工芸新作展
③1月11日～4月20日

◆ **石川県立歴史博物館**
①076(262)3236
②れきはくコレクション2007
③2月16日～3月23日

◆ **成巽閣**
①076(221)0580
②前田家伝来　雛人形雛道具特別展
③2月7日～4月14日

◆ **藩老本多蔵品館**
①076(261)0500
②コレクション展示 袱紗
③1月4日～3月31日

加賀地区

◆ **加賀市中谷宇吉郎雪の科学館**
①0761(75)3323
②第4回 雪のデザイン賞入選作品展
③11月1日～2月19日

◆ **小松市立本陣記念美術館**
①0761(22)3384
②季節のうつろひ
～四季折々の有情浪漫
③11月20日～3月9日

◆ **能美市立九谷焼資料館**
①0761(58)6100
②館蔵品展「金沢・江沼」
③1月22日～2月22日

能登地区

◆ **石川県七尾美術館**
①0767(53)1500
②春の所蔵品展
③2月9日～3月30日

◆ **石川県輪島漆芸美術館**
①0768(29)9788
②第25回 日本伝統漆芸展
③2月1日～2月24日

①連 絡 先
②展覧会名
③開催期間

ミュージアムレポート

学校出前講座 どこでもミュージアム
イン　清湖小・野々市小

11月21日に内灘町立清湖小学校、12月7日に野々市町立野々市小学校を訪問し、作品鑑賞授業を行ってきました。後日学校から届いた感想を少し紹介します。

全部の作品が良かった。きれいな作品もあれば、不思議なかんじの作品もあって･･･。「なんだこれ?」って思う作品もありました。いろんな作品があって、いろんなかんじがして、とてもよかったです。絵ってスゴイなと思いました。

一番好きだなと思ったのは「午後」です。わけは遠近感がすごく出ていたし、細かいところまでかいてあるのがすごいと思ったからです。ずーっと奥にはちょっとドアが開いている所があっていかにも何かでてきそうという感じもした。

私の好きな絵は、「モンリューソンの坂道」でした。わけは、その場にいるみたいで、「早く帰らんなん」と思うからです。家や木はとてもリアルでした。

3つとももっと長い文章なのですが、抜粋させていただきました。このように毎回出前先でたくさんの感動の言葉をいただきます。今年の秋にはリニューアルした美術館での感想もぜひ聞かせていただきたいです。

変わります
ただ今リニューアル進行中

育徳会展示室前→
すっかり淋しくなりました。

←美術館外観
フェンスの中では日々槌音が

第1展示室→
国宝の雉も避難しています。

2月の行事案内

■県立生涯学習センター(3階35号室) 金沢市広坂2丁目1番1号 石川県広坂庁舎1号館
■午後1時30分より ※入場無料

月　日	行　事	内　容	
2月　3日(日)	美術講座	「古九谷コード」への挑戦	(村瀬 博春 学芸専門員)
2月10日(日)	美術講座	茶の湯の美	(高嶋 清栄 学芸専門員)
2月17日(日)	美術講座	洋画団体の誕生と変遷	(二木 伸一郎 学芸専門員)
2月24日(日)	美術講座	デューラー その生涯と芸術	(織田 春樹 学芸主査)

次回の展覧会
石川県立歴史博物館が会場になります

古九谷と再興九谷

石川県立美術館だより 第292号
2008年2月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580　Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp